

行政評価事務事業一覧

【まちづくりの目標5_人権・協働・社会教育・文化・スポーツ・コミュニティ】

施策 5-2_文化芸術の振興と歴史文化の継承

基本計画		事業番号	細事業名称
5-02-01	文化芸術活動の推進	06199_01	別子山地区産業文化祭開催事業
5-02-01	文化芸術活動の推進	10144_01	文化施設環境整備事業
5-02-01	文化芸術活動の推進	10335_01	文化芸術振興事業
5-02-01	文化芸術活動の推進	10479_06	総合文化施設充実事業
5-02-01	文化芸術活動の推進	10502_01	総合文化施設環境整備事業
5-02-01	文化芸術活動の推進	10512_01	新居浜市文化祭事業補助金
5-02-01	文化芸術活動の推進	10623_01	新市民文化センター建設準備事業
5-02-02	文化財・伝統文化の保存と歴史文化の継承	02556_01	市史編さん事業
5-02-02	文化財・伝統文化の保存と歴史文化の継承	10255_01	文化財保護事業
5-02-02	文化財・伝統文化の保存と歴史文化の継承	10255_02	市指定文化財保存事業補助金
5-02-02	文化財・伝統文化の保存と歴史文化の継承	10255_03	ツガザクラ保存管理計画策定事業

令和5年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2023	06199_01		
事業名(行目名称)		別子山地区産業文化祭開催費	細事業名	別子山地区産業文化祭開催事業			
総合計画	まちづくり	人権・協働・社会教育・文化・スポーツ・コミュニティ	施策	文化芸術の振興と歴史文化の継承			
	基本計画	文化芸術活動の推進	担当課	別子山支所			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	別子山地区地域住民等		数値	200人		
	手段(どうやって)	別子校区産業文化祭のうち産業の部においては、農林産物の展示、即売を実施する。文化の部においては、絵画、書道、写真、手芸品等の作品を展示する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	別子校区産業文化祭は、農林産物の展示、即売など各種の催し物を通じて生産者の意欲の向上を図るとともに、文化祭を通じて地域住民のつながりを深める。					
III 投入費用							
実施年度		令和4年度 決算額(千円)	令和5年度(千円)			令和5年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額	○委託料 250千円	
経費		250	250	250			
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0			
	その他	250	250	250			
	一般財源	0	0	0			
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和3年度	令和4年度	令和5年度中間値	令和5年度	令和6年度
来場入場者数(人)		目標値	200	200	200	200	200
		実績	190	150	0	151	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
11月12日に産業文化祭を行うため、準備の段階である。コロナ明け最初の文化祭でもあり、自治会単位で餅つきなどをしようかという話も出てきている。高齢化が著しいので、自治会の催し物がいつまでできるかはわからない。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
実行委員会の状況で判断するしかないが、自治会の文化祭頑張るぞという熱意もあり、別子山地区で多くの人間が集まり、楽しめる機会もないので、現状維持で事業を行いたい。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和5年度)	A: 計画通りに事業を進めることが適当				
別子山地域が一体となって取り組むことにより、地域の活性化に寄与することができた。また農産物の一部については、学校に寄付することで、学校と地域との関係の結びつきを深くなった。コロナ明けで、自治会、民間業者の出店、イベントもあり、住民の満足度は高かったと思われるので、現状通り、事業を実施したい。							

令和5年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2023	10144_01		
事業名(行目名称)		文化施設環境整備事業	細事業名	文化施設環境整備事業			
総合計画	まちづくり	人権・協働・社会教育・文化・スポーツ・コミュニティ	施策	文化芸術の振興と歴史文化の継承			
	基本計画	文化芸術活動の推進	担当課	文化振興課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	全市民	数値	120351			
	手段(どうやって)	建物及び設備の改修、備品の整備					
	目的(どんな状態にしたいのか)	施設修繕等を行い、適正な施設の管理運営を図り、文化施設を利用する市民の利便性の向上や快適な使用環境の提供を図る。また、施設の不備による臨時の休館がないよう適正な管理をしていく。					
III 投入費用							
実施年度		令和4年度 決算額(千円)	令和5年度(千円)		令和5年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		32,050	29,043	29,043			
財源	県・国支出金	0	0	0	○需用費 8,892千円 ○委託料 858千円 ○使用料及び賃借料 19,293千円		
	地方債		0	0			
	その他	0	8,892	8,892			
	一般財源	32,050	20,151	20,151			
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和3年度	令和4年度	令和5年度中間値	令和5年度	令和6年度
工事修繕件数		目標値	3	1	0	4	0
		実績	3	1	0	4	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
施設も老朽化しており、利用者の安全性を図るためにも施設修繕は必要である。しかしながら、令和9年度に目標耐用年数迎え、閉館を予定していることから、費用対効果を考え大規模な改修は行わず、早急な対応が可能な施設修繕費で対応を行っていく。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
老朽化施設のため緊急性を伴うものが多く、柔軟な対応が求められる。適正な施設管理を行うためにも引き続き予算要望を行う。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和5年度)		C:事業規模・内容・実施主体の見直し検討				
市民の方が安全に少しでも良い環境で文化芸術活動が行えるよう、設備や備品等の更新を行った。今後の環境整備については、残年数との費用対効果を考慮し、大規模工事ではなく修繕での対応が妥当と考える。老朽化が進んでいることもあり、突発的な故障、損傷の発生回数が増加していることから、早急に対応できるような修繕費の確保が必要である。							

令和5年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2023	10335_01		
事業名(行目名称)		文化芸術振興費	細事業名	文化芸術振興事業			
総合計画	まちづくり	人権・協働・社会教育・文化・スポーツ・コミュニティ	施策	文化芸術の振興と歴史文化の継承			
	基本計画	文化芸術活動の推進	担当課	文化振興課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	新居浜市民	数値	120351			
	手段(どうやって)	子どもが芸術活動を体験できるよう、芸術文化プログラム等を開催する。また、ホールの活用を図ると同時に、多くの市民が身近な地域で芸術に触れる機会を提供する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	市民が芸術公演を体験し、また、子ども達も身近な地域で体験することにより、豊かな時間を共有する。					
III 投入費用							
実施年度		令和4年度 決算額(千円)	令和5年度(千円)		令和5年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		1,531	1,811	1,811	2,039		
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0			
	その他	0	1,670	1,670	0		
	一般財源	1,531	141	141	2,039		
○職員手当等 83千円 ○需用費 58千円 ○委託料 1,670千円							
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和3年度	令和4年度	令和5年度中間値	令和5年度	令和6年度
文化公演事業数(アウトリーチ含む)		目標値	13	13	15	15	15
		実績	5	7	4	14	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
「ふるさと写生大会」の開催や、小中学生を対象とした「芸術文化プログラム」の実施を通して、子ども達が身近な地域で芸術に触れ、創作を行う機会を提供するとともに、優れた芸術を体験する事業が実施できている。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	拡大				
これまで実施している「ふるさと写生大会」や「芸術文化プログラム」に加えて、2年に1度開催する「郷土芸能発表会」を実施することで、幅広い世代の市民の方が魅力的な文化芸術活動を体験できる場を創出していきたい。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和5年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
プロの演奏家の生の音楽を至近距離で鑑賞することで、市民が文化芸術に触れ感動と共感の輪を広げつないでいくことを目的とし、「100万人のクラシックライブ」を実施した。そのほか、「芸術文化プログラム」では瀬戸フィルハーモニー交響楽団や芸術家等を市内小中学校に派遣し、子ども達に文化芸術に触れる機会を提供したり、新居浜文化協会が中心となり「こどもふるさと写生大会」、「春の文化祭」、「市美術展覧会」を実施し、幅広い世代の人々が芸術文化活動に参加できる機会の拡大を図った。							

令和5年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2023	10479_06		
事業名(行目名称)		総合文化施設充実費	細事業名	総合文化施設充実事業			
総合計画	まちづくり	人権・協働・社会教育・文化・スポーツ・コミュニティ	施策	文化芸術の振興と歴史文化の継承			
	基本計画	文化芸術活動の推進	担当課	文化振興課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	市民	数値	117389			
	手段(どうやって)	新居浜市美術館で、企画展、コレクション展を開催する。あかがね座、創作スペースを活用してイベント、ワークショップを実施する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	新居浜市内外にあかがねミュージアムについて発信し、あかがねミュージアムを知ってもらう。また新居浜市民の文化力の向上を図る。					
III 投入費用							
実施年度		令和4年度 決算額(千円)	令和5年度(千円)		令和5年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		20,725	41,059	41,059	40,096		
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0			
	その他	20,725	41,059	41,059	40,096		
	一般財源	0	0	0	0		
<ul style="list-style-type: none"> ○職員手当等 496千円 ○報償費 50千円 ○旅費 1,510千円 ○役員費 200千円 ○委託料 23,523千円 ○使用料及び賃借料 80千円 ○負担金補助及び交付金 15,200千円 							
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和3年度	令和4年度	令和5年度中間値	令和5年度	令和6年度
展覧会回数		目標値	6	5	2	4	4
		実績	7	6	2	4	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
<p>令和5年度に予定していた展覧会は計画通り開催できている。春季特別展「日本近代洋画の名作展 LOCAL-NIPPON」では、公益財団法人ひろしま美術館所蔵の約80点を展示し、画家の出身地を切り口に作品の魅力に迫った。独自のテーマ、質の高い油彩画作品の数々が来場者に好評を博した。夏の企画展「tupera tuperaのかおてん。」は、絵本を中心に活躍している人気作家の参加・体験型作品を集めた。夏休みということもあり、家族連れを中心に16,000人超の来場があり、盛況であった。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
<p>今後も充実した展覧会を開催していくため、安定した事業予算の確保が必要であると思われる。</p>							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和5年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
<p>当初予定していた「日本近代洋画の名作展 LOCAL-NIPPON」「tupera tuperaのかおてん。」「生誕100年 山下清展」「新居浜の美術コレクション展示2023」は全て無事開催することができた。良質な美術作品から体験型展示まで多彩なジャンルを取り上げることで、美術ファンのみならず、幅広い年齢層の人に美術館へ足を運んでもらうきっかけとなった。</p>							

令和5年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2023	10502_01		
事業名(行目名称)		総合文化施設環境整備事業	細事業名	総合文化施設環境整備事業			
総合計画	まちづくり	人権・協働・社会教育・文化・スポーツ・コミュニティ	施策	文化芸術の振興と歴史文化の継承			
	基本計画	文化芸術活動の推進	担当課	文化振興課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	新居浜市民	数値	117389			
	手段(どうやって)	利用者から特に要望の多い設備の設置や、来館者の安全性を確保するため施設の一部を修繕する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	来館者の安全性の確保及び利便性向上					
III 投入費用							
実施年度		令和4年度 決算額(千円)	令和5年度(千円)			令和5年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額	○需用費 9,622千円	
経費		999	9,622	9,622	8,880		
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0			
	その他	0	9,622	9,622	0		
	一般財源	999	0	0	8,880		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和3年度	令和4年度	令和5年度中間値	令和5年度	令和6年度
工事・修繕実施回数		目標値	2	2	5	5	8
		実績	8	2	1	5	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
利用頻度の高い設備を中心に、故障したり部品交換の時期がきたりしているため、順次更新していく必要がある。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	拡大				
開館10周年を控え、経年劣化による設備更新が増えている。設備が不具合を起せば、来館者に不便が生じるほか、美術作品への影響も大きいいため、緊急を要するものから計画的に修繕をしていく必要がある。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和5年度)	A: 計画通りに事業を進めることが適当					
経年劣化による故障が相次いでいるため、必要な予算を確保し、緊急性の高いものから計画的に修繕をしていく必要がある。							

令和5年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2023	10512_01		
事業名(行目名称)		新居浜市文化祭事業推進費		細事業名	新居浜市文化祭事業補助金			
総合 計画	まちづくり	人権・協働・社会教育・文化・スポーツ・コミュニティ		施策	文化芸術の振興と歴史文化の継承			
	基本計画	文化芸術活動の推進		担当課	社会教育課			
II 事務事業の実施概要								
事務 事業 内容	対象(誰・何を)	新居浜市民			数値	116,052人(R4.3.31現在)		
	手段 (どうやって)	公民館もしくは小・中学校体育館等を使用し、文化祭を開催する。 ・児童・生徒の作品展示 ・公民館サークルおよび単位自治会の作品展示 ・地域各種団体によるバザー・作品展示等						
	目的 (どんな状態にしたいのか)	公民館を中心として文化祭を開催することにより、市民の文化性および協調性を高め、今後より一層の地域交流の向上を目的とする。						
III 投入費用								
実施年度		令和4年度 決算額(千円)	令和5年度(千円)			令和5年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		574	954	954	○負担金補助及び交付金 954千円			
財源	県・国支出金	0	0	0				
	地方債		0	0				
	その他	0	0	0				
	一般財源	574	954	954				
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和3年度	令和4年度	令和5年度中間値	令和5年度	令和6年度	
文化祭来場者数(人)			目標値	117439	116052	114886	114886	113466
			実績	2614	7974	0	16318	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
令和5年度実施予定の校区文化祭は、対象となっている14校区(地区)のうち、13校区が11月初旬から中旬にかけて実施予定。残る1校区については今年度は、公民館と小学校の間の道路工事のため、開催中止を決定。新型コロナ後の開催ということで、バザー等、各校区(地区)の実情に応じ、工夫しながらの開催予定となっている。小・中学校の児童・生徒の作品を中心に公民館サークル、講座の作品展示や地域各種団体のコーナーの設置など、多世代にわたる地域住民の相互交流の場となるよう計画が進められている。								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
公民館を中心とした文化祭の実施は、多くの住民や世代が関わる良い機会となっており、市民の文化性及び協調性を高め、地域交流の向上を図る良い機会となっており、本事業を継続する。								
VI 事後評価								
成果	総合評価(令和5年度)		A: 計画通りに事業を進めることが適当					
令和5年度文化祭は、13校区(地区)において実施した。小中学校等の児童生徒の作品や地域各種団体の作品、公民館サークルや講座の作品などを展示され、また、物品販売も賑わい、多世代に渡る地域住民の相互交流の場となった。								

令和5年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2023	10623_01	
事業名(行目名称)		新市民文化センター建設準備事業費		細事業名	新市民文化センター建設準備事業		
総合 計画	まちづくり	人権・協働・社会教育・文化・スポーツ・コミュニティ		施策	文化芸術の振興と歴史文化の継承		
	基本計画	文化芸術活動の推進		担当課	文化振興課		
II 事務事業の実施概要							
事務 事業 内容	対 象(誰・何を)	市民			数 値	120351	
	手 段 (どうやって)	新市民文化センター建設に向けた必要な機能・施設等について、市民検討委員会等を設置し、協議、検討していく。					
	目 的 (どんな状態にしたいのか)	基本構想、基本計画を策定することにより、新市民文化センターの整備手法等の具現化を図る。					
III 投入費用							
実施年度		令和4年度 決算額(千円)	令和5年度(千円)			令和5年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		15,452	18,100	18,100			
財 源	県・国支出金	0	0	0	○職員手当等 311千円 ○報償費 204千円 ○需用費 18千円 ○委託料 17,567千円		
	地方債		0	0			
	その他	15,452	18,100	18,100			
	一般財源	0	0	0			
IV 指 標							
成果指標名(計算式)			令和3年度	令和4年度	令和5年度中間値	令和5年度	令和6年度
基本計画の策定			目標値	1	0	1	0
			実績	1	0	1	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
新市民文化センターの整備を行うため、基本計画策定委員会を設置し、昨年度策定した基本構想をより具体化した基本計画の策定にむけ協議、検討を行っているところである。 より良い施設整備に向け、費用対効果も勘案しながら、引き続き検討を行っていく。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
令和6年度については、PPP/PFI導入可能性調査を行う予定であり、引続き予算要望を行う。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和5年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
新市民文化センターの整備にあたり、事業を確実に進めることを目的に、基本計画策定委員会、庁内検討委員会、ワークショップを開催し、昨年度策定した基本構想をより具体化した基本計画を策定した。 令和6年度は、この基本計画を受け、民間活力導入可能性調査を実施して具体的な事業手法を検討するとともに、管理運営方針を策定する予定である。							

令和5年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2023	02556_01			
事業名(行目名称)		市史編さん事業費	細事業名	市史編さん事業				
総合計画	まちづくり	人権・協働・社会教育・文化・スポーツ・コミュニティ	施策	文化芸術の振興と歴史文化の継承				
	基本計画	文化財・伝統文化の保存と歴史文化の継承	担当課	市史編さん室				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	新居浜市民		数値	116052			
	手段(どうやって)	市民意識の醸成を図りながら、資料の収集、調査・分析等を行い、新しい「新居浜市史」を編さんする。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	市民が、新居浜市の歴史を学び、知ることにより、新居浜市に対する愛着や誇りを持つまちを目指す。また、市民の歴史的文化的遺産として歴史史料を後世に継承するとともに、新居浜市が将来進むべき方向を見極めるため、過去から現在を伝えるための正確な記録を残す。						
III 投入費用								
実施年度		令和4年度 決算額(千円)	令和5年度(千円)			令和5年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		14,640	13,902	13,902		○報酬 4,216千円 ○職員手当等 627千円 ○共済費 766千円 ○報償費 2,595千円 ○旅費 1,776千円 ○需用費 1,001千円 ○役務費 84千円 ○委託料 1,969千円 ○使用料及び賃借料 633千円 ○備品購入費 193千円 ○負担金補助及び交付金 42千円		
財源	県・国支出金	0	0	0	0			
	地方債		0	0				
	その他	14,640	13,902	13,902				
	一般財源	0	0	0				
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和3年度	令和4年度	令和5年度中間値	令和5年度	令和6年度	
普及事業の実施回数(講演会・調査報告書・ロビー展等)			目標値	2	4	2	4	4
			実績	1	4	2	4	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
市史編さん基本方針及び刊行計画に基づき、概ね計画通り資料収集、資料調査等実施している。また、市民への啓発についても、計画通り実施できているが、今後とも効果的な手段により、啓発していく。								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
本編として最初の刊行物である、『古代・中世 史料編』は令和7年度刊行予定であり、計画通りに進めるために、編集委託料や執筆料の要望を行う。								
VI 事後評価								
成果	総合評価(令和5年度)		A: 計画通りに事業を進めることが適当					
市史編さん方針に基づき、4専門部会において進捗管理を行いながら、史料収集、史料調査、編集など実施した。刊行計画に基づき、まず、令和7年度『史料編 古代・中世』、令和8年度『部門編 新居浜太鼓台』の発刊に向け、更に委員と連携しながら取り組んで行く。啓発事業についても、昨年度発行した報告書に基づく歴史講演会の開催、研究成果としての新たな報告書『与州新居系図』の発行、啓発ロビー展など開催し、市民の郷土に関する歴史への関心を深めた。								

令和5年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2023	10255_01		
事業名(行目名称)		文化財保護費	細事業名	文化財保護事業			
総合計画	まちづくり	人権・協働・社会教育・文化・スポーツ・コミュニティ	施策	文化芸術の振興と歴史文化の継承			
	基本計画	文化財・伝統文化の保存と歴史文化の継承	担当課	文化振興課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	全市民	数値	120351			
	手段(どうやって)	(1)開発業者等からの土木工事等の予定場所が周知の埋蔵文化財包蔵地であるか否かの照会に対し、適切な対応を指導する。 (2)文化財所有者等から所有する文化財の保存について相談があった場合に、適切な助言を行う。 (3)文化財に関する所有者や開発業者からの多様な質問に対し、適切な対応がとれる体制を整備するため、職員の資質向上のための研修に積極的に参加する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	(1)指定文化財については、所有者等からその適切な保存のために相談があったときに専門的な立場から助言を行うほか、修理等が必要な場合にはその方法を指導し、必要な場合は財源確保のためのアドバイスを行うことにより文化財の適切な保存と活用を図っていく。 (2)埋蔵文化財については、公共事業に伴う発掘調査の計画をなるべく早期に把握し、調査体制の充実を図る。民間開発についてはいつどの程度の規模の調査が発生するか予測できないため困難ではあるが、公共事業に伴う調査については事業課に直接照会依頼を行う。					
III 投入費用							
実施年度		令和4年度 決算額(千円)	令和5年度(千円)			令和5年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		224	872	872		○報償費 153千円 ○旅費 96千円 ○需用費 73千円 ○使用料及び賃借料 550千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0			
	その他	0	0	0			
	一般財源	224	872	872			
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和3年度	令和4年度	令和5年度中間値	令和5年度	令和6年度
文化財指定登録件数		目標値	110	110	110	110	112
		実績	110	110	109	109	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
埋蔵文化財について、所有者や事業者等への適切な指導を行っている。 文化財の登録件数の1減については、所有者が市外へ転出したことが要因である。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
埋蔵文化財及び指定文化財の適切な保存を行うためにも予算要求を行う。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和5年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当					
国指定文化財の相続による県外転出により、件数が1件減少したが、大島村上家住宅外2件が登録有形文化財として新たに登録されることになった。							

令和5年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2023	10255_02		
事業名(行目名称)		文化財保護費	細事業名	市指定文化財保存事業補助金			
総合計画	まちづくり	人権・協働・社会教育・文化・スポーツ・コミュニティ	施策	文化芸術の振興と歴史文化の継承			
	基本計画	文化財・伝統文化の保存と歴史文化の継承	担当課	文化振興課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	全市民	数値	120351			
	手段(どうやって)	文化財の所有者(管理者)に補助金を支出し、適正な補修、維持管理を行ってもらう。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	市指定文化財である「アッケシソウ」及び「久具屋敷」を将来にわたって適正に維持していく。					
III 投入費用							
実施年度		令和4年度 決算額(千円)	令和5年度(千円)			令和5年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額	○負担金補助及び交付金 356千円	
経費		155	356	356			
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0			
	その他	0	0	0			
	一般財源	155	356	356			
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和3年度	令和4年度	令和5年度中間値	令和5年度	令和6年度
補助実施率		目標値	100	100	100	100	100
		実績	20	20	0	70	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	やや高い	効率性	低い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
市指定文化財の適正な維持管理を行ってもらっている。 年間を通しての維持管理のため、年度末に成果報告を受理後の補助金支出となる。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
貴重な文化財の保存にかかるものであり、適正な保存管理を行っていくためにも予算要望する。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和5年度)	B:事業の進め方の改善検討					
久具屋敷については補助を行うことにより、適正な維持管理を行うことができた。 管理者死亡につき実施できなかったアッケシソウの保存事業については、引き続き地元公民館を中心として再開できるように取り組んでいる。							

令和5年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2023	10255_03		
事業名(行目名称)		文化財保護費	細事業名	ツガザクラ保存管理計画策定事業			
総合計画	まちづくり	人権・協働・社会教育・文化・スポーツ・コミュニティ	施策	文化芸術の振興と歴史文化の継承			
	基本計画	文化財・伝統文化の保存と歴史文化の継承	担当課	文化振興課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	全市民		数値	120351		
	手段(どうやって)	植生調査を実施し、有識者や市民の意見を取り入れた保存管理計画を策定する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	貴重な天然記念物を後世まで守り伝えていく。					
III 投入費用							
実施年度		令和4年度 決算額(千円)	令和5年度(千円)			令和5年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		3,570	3,300	3,300			
財源	県・国支出金	1,224	1,500	1,500	○委託料 3,300千円		
	地方債		0	0			
	その他	0	0	0			
	一般財源	2,346	1,800	1,800			
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和3年度	令和4年度	令和5年度中間値	令和5年度	令和6年度
委員会開催回数		目標値	1	2	2	4	0
		実績	1	2	1	4	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	手段を改善する				
これまで行った調査結果を元に、策定委員会を行い「銅山峰のツガザクラ群落保存活用計画」を令和6年3月を目途に策定中である。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	縮小				
令和6年3月に策定予定である「銅山峰のツガザクラ群落保存活用計画」に沿った、ツガザクラの保存活用を行う必要がある。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和5年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当				
当初の計画どおり保存活用計画の策定が完了した。 今後はこの計画が国に認定されるように申請を行う。							

令和〇年度 事務事業評価表

I 基礎情報							
事業名(行目名称)				細事業名			
総合計画	フィールド			施策			
	基本計画			担当課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)				数値		
	手段(どうやって)						
	目的(どんな状態にしたいのか)						
III 投入費用							
実施年度		令和〇年度 決算額(千円)	令和〇年度(千円)			令和〇年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	現執行額	決算額		
経費							
財源	県・国支出金			-			
	地方債			-			
	その他			-			
	一般財源			-			
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和〇年度	令和〇年度	令和〇年度中間値	令和〇年度	令和〇年度
		目標値			-		
		実績					-
V 事中評価							
評価視点		妥当性		有効性		効率性	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向					
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向					
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和〇年度)						
事中評価	作成担当者		最終評価責任者				
事後評価	作成担当者		最終評価責任者				